

定例教育委員会会議録

(平成29年1月6日開催)

岡谷市教育委員会

定 例 教 育 委 員 会

日 時 平成29年1月6日(金)
午後 3時00分
場 所 202会議室
署名委員 橋爪委員、太田委員

【 次 第 】

○ 開 会

○ 教育長報告

○ 議 題

1. 活力ある学校づくりの推進について (教育総務課)

(1) 岡谷版コミュニティスクールについて 【別添資料】

(2) 岡谷スタンダードカリキュラムについて 【別添資料】

○ 報 告

1. 平成28年度上半期岡谷市教育委員会事務の管理及び執行状況【資料No.1】 (教育総務課)

○ そ の 他

・行事等について(各課)

・その他

【次回開催予定】 2月8日(水) 定例教育委員会 15時00分 2階 202会議室

席委員

教育長 岩本 博行、職務代理者 草間 吉幸、教育委員 橋爪 園美、教育委員 太田 博久、
教育委員 高木 千奈美、教育委員 藤森 一俊

事務局(説明員)

教育部長 吉澤 洋人、教育部教育担当参事 橋爪 哲也、教育総務課長 帯川 豊博、
生涯学習課長 小坂 英之、スポーツ振興課長 小松 厚、冬季国体推進室長 小口 智行
教育総務課統括主幹 山田 勝由紀、教育総務課主幹 高橋 卓、教育総務課主査 保科 圭吾

<会議録>

○開 会

岩本教育長：すでに何回かお行き会いしている方もいる訳ですけども、新年ということでおめでとうございます。昨年は教育委員会にとって大きな3校統合の問題、或いは新教育長制度といったような制度改革など、色々なことがございましたけれども、おかげさまで、順調に今までできていること本当に感謝でございます。教育委員の皆さんのお力添え、そして、事務局の職員の皆さんの努力、或いは学校現場の先生方のご支援、色々な力が合わさって良い方向へきているのかなあと改めて感謝をしているところでございます。今年もまたさらに色々な課題がある訳ですけども、昨年と同じようにみんなで力を合わせて、チーム『岡谷市教委』ということで頑張っていきたいと思っております。

また、今年を表す漢字として今井市長さんが「活」という字を示されましたけども、教育委員会としまして、この「活」という字を大事にしていきたいと思っております。「活性化」とか「活発」とか「活力」とか活という字を使った言葉は色々ある訳ですけども、色々な意味合いの中で「活」をみんなで大事にしていき、この1年間を過ごせたらいいなあと思っているところであります。どうかまた、お力添えをよろしく願いいたします。

それでは、只今より定例教育委員会を始めたいと思っております。本日の署名委員は橋爪委員さんと太田委員さんをお願いをいたします。最初に私から教育長報告をさせていただきます。

○教育長報告

まず、教育総務課関係でございます。

1. 岡谷市いじめ根絶子ども会議について

昨年の12月17日(土)に諏訪湖ハイツで行われた訳ですが、委員の皆さんも何人かお見えいただいて応援して頂きました。ありがとうございました。

まず、子ども会議に参加した中学生の感想を紹介したいと思います。「いじめの具体的な例から考えることで、いじめはすごく小さなことから始まり、加害者はいじめだと気がついていないということを学びました。いじめが起こらないためには、いじめが起こらないような空気を作ることが大切だと感じた。だからまさにこの会議がいじめを絶対に許さないという強い決意に充ちた時間であったと思う。会議で学んだことを広め、いじめに対する強い気持ちを持っていきたい。」こんな感想がございました。私もずっと参加をさせていただいて、いくつか感動するような場面があった訳ですが、今回のこの会議には大きく言うと3つ大事な点があったのかなあと思っています。

まず、1点目は、今までは小学生、中学生が力を合わせていじめ根絶ということで会議をしていましたが、今回はそこに昨年までこの会議に関わっていた高校生が2人参加してくれて、暖かいメッセージを頂きました。小・中・高の3つの学校の繋がりの中で、子ども達が真剣にいじめについて考える素晴らしい機会になったと思います。

2点目は、子ども達がすべて企画から進行、運営までやって、今年で4回目を迎えるということで、一回一回実践を積み重ねる中で本当に子ども達が自分達の手作りでこの会議を進めるということが出来た。これは非常に素晴らしいことだと思います。

3点目は、いじめ根絶子ども会議ということについては、イベント的な点というような感じがあった訳ですけども、お陰様で点から線、線から面とうような非常に繋がりが感じられるような会議になってきて、今回も12月だけではなくて、1学期から何回か小中学生が力を合わせて根絶会議を開いてきている訳です。そうした実践の積み重ねの中で12月の会議が開かれたということもありますし、そして、それぞれの節目の会議の中で学んだことを校内に広めたり、或いは地域で発表したりというようなことで学校だけではなく、色々なところで子ども達が思いを広めていく、そういう繋がりもございました。とりわけ今年は小・中という連携が非常に大きくて、この会議だけではなく、たとえば、小学校6年生がそれぞれの学校へ行って一緒にいじめについて考えるとかそういった動きが非常にございました。そういった意味でも一段とパワーアップできたこの子ども会議ではなかったのかなあと思っています。そんな評価をしているところであります。

さらに、子ども達自身もいじめというものの大変さ、また、みんなで無くしていかなければいけない、そういう

思いを共有して、頑張ってくれるように私達の支援も大事にしていきたいなと思っております。
また、参加をしていただいた委員さんからも感想をいただけたらありがたいなと思います。
次に生涯学習課関係の報告でございます。

2. 成人式について

あさって8日に「成人式」が行われます。悲惨な青少年犯罪が報道され少年法の改正議論もされる一方で、選挙権年齢が引き下げられ、若者の意識も時代とともに変化してきていると感じています。そうした中でも、「二十歳の成人式」は、将来の岡谷を担う子どもたちを、学校や地域で見守り育ててきた、私たち教育関係者にとっても、大きな節目であろうと思います。乳幼児期から保育園、小・中・高校の学校生活と、家庭の愛情につつまれ、地域の人々に見守られながら育ち、立派に成長した新成人の晴れ姿を見るのが今から楽しみです。教育委員さんからもメッセージを贈っていただきますが、社会の一員としての責任と夢を抱けるような、厳粛ななかにも心のこもった式典にしたいと考えていますので、よろしく願いをいたします。

以上教育長報告2点でございます。それでは、委員さんからもご意見を頂きたいと思います。いじめ根絶子ども会議に出ていただいた草間職務代理者さんお願いいたします。

草間職務代理者： 私も小・中・高が岡谷で連携していじめについて取り組むことは非常に良いと思いました。それで、分散会の中で小学生が中学生のお兄さん、お姉さんと対等に意見を混ぜ合えるそういう機会が根絶会議の中で見られまして、自分達で運営して、自分達でどうしたらいいのかということを実際に真剣に考えて大変良い会議だったと思います。これを今度は参加した子ども達が学校へ帰って広げていき、みんなで同じ気持ちであれば岡谷からいじめの根絶という事実が実現されるように思いました。

岩本教育長：他に何かございますか。また資料をご覧いただければと思います。
それでは次に本日の議事に入ります。

○議 題

1. 活力ある学校づくりの推進について (教育総務課)

(1) 岡谷版コミュニティスクールについて

岩本教育長：事務局より説明をお願いいたします。

<湊小学校酒井校長より湊小学校の取り組みを中心に岡谷版コミュニティスクールについて説明。>

岩本教育長：ありがとうございました。今、湊小学校の酒井校長先生から発表していただいた内容について委員さんからご質問やご意見等ありましたらお願いいたします。

橋爪委員：年間の活動計画にそって具体的にここをこういう風にしようというレベルの検討が始まっているというのは、すごく実際の素晴らしいなあと思いました。音楽会も地域の方達と一緒に出来て、作品展なんかも学校で子ども達の作品と地域の方達の作品と一緒に見合えるような形になっていくと本当に地域が一体になっていく感じになるなあと思って、すごく応援したい気持ちでおります。

太田委員：今、酒井校長先生のお話しをお伺いして、具体的に色々なことが進められていて、非常に興味深く拝聴しました。それで、一つお聞きしたいんですが、校長先生がおっしゃるとおりで地域づくりのパートナーという形で学校の先生方と子ども達、地域の皆さんがお互いに学校や学校を含めた地域を良くして行こうという意識に向かっていくということで、それが大事なことだと思いますが、その時にこれから色々な形で整えられていくと思いますが、おそらく運営委員会というのがそこで色々な形でお互い抱えている課題だとか、色々なものを共有し合ったり、すごく中心的な機能を担っていく部分になっていくかと思いますが、その現状というのは今のところどんな感じなんですか。

酒井校長：各小中学校の運営委員会にコーディネーターさんがいらっしゃって、そのコーディネーターさんのリーダーシップによってだいぶやり方が違うのかなと思っています。本校の場合は松浦さんとPTA会長さんがやっていたのですが、コーディネーターによっては放課後子ども

居場所づくりのための、企画を作らなければいけないんだということで、そこだけが中心になってしまっていて、それを通してどんな子ども、どんな地域にするのかというところが実は狙い目なんです。なかなか話題にのらない場合もあります。ですので、極端な話本校では自由で、そこを通して子どもがどんな遊びを作ったりするのが大事で、そこをどう共有するのが大事な点かなあと思います。今後、運営のコーディネーターさん同士の交流をしたりとか、私達校長会とか担当はやっているんですが、コーディネーターさん同士で岡谷型バージョンのコミュニティスクールを理解し合ってより良くしていくことが大きいところかなと思います。

藤森委員： 校長先生のご説明を聞きまして、地域づくりのパートナーの意識を作るということに非常に感銘を受けました。まさにコミュニティスクールの趣旨がこの言葉の中に集約されているのかなあと思っております。一つ質問なんです、湊地区は湊小学校があって、同じ地域内に南部中学校も存在されていると思います。中学校は中学校でコミュニティスクールの取り組みをされていると思うんですが、地域の中で今お話があった運営委員さんが、学校同士でかぶってしまったりとか、運営上の問題点や現状抱えている課題等あれば教えて頂けますでしょうか。

酒井校長： それがお互い大きな課題で、小中連携が今年の校長会でも課題になり、今、「OEE」という名前前で小中連携を図りましょうということで進み始めてます。それで結果から言いますと、今までは別々でしたが、「OEE」の趣旨を踏まえて、来年度からこういう変化が起こっています。今までは小中別々にやっていた地区懇談会を一緒にやりましょうということで、湊地区で共通していることを最初にやって、その後、小学校と中学校で別々にやりますというような話しまで進んでおります。

また、来年度校長間同士の話なんです、おはよう日を南部中と湊小の両方開催で、ボランティアさんを共有でやらないとかという話も出てきているところです。本当に今、藤森委員さんがおっしゃったように、今まで課題だったことを小中連携でやっていくことがコミュニティスクールの大事な点だと思います。ただし、まだまだ試行なので課題も大きいかなとも思いますが、段々に進めていきたいと思っています。

高木委員： 今、お話しをお聞きしていて、色々な面で工夫がされて、コミュニティスクールがつくられていて、一つ一つ工夫がされているというのは、とても感動的だなと思いました。音楽会で地域の方が入って一緒に発表して下さるのを子ども達が見るといっても、大人が頑張っている姿を間近で見るといことは、とても大事な機会だと思いますので、とてもいい機会になるのではないかと考えています。

また、自分自身もボランティアとして学校に入ることがあるんですけども、ボランティア自身の意識で地域づくりのパートナーという視点があって、なるほどという風に私自身も思いました。学校の先生方も含めボランティア自身も意識をどう高めていくか、どんな方向に持っていくかということ、なかなか難しいことだと思いますが、これからの大きな課題でもあり、コミュニティスクールを上手にやっていく上で大事な視点かなと思います。

草間職務代理者： 昨年、リコーダーが全国表彰された時、保護者だけではなく湊区民がみんな喜んでカノラホール集まって、ああいう場面が湊地区の本当に良い特色だと思います。その時に湊教育振興会という存在を知りまして、湊地区はこういう財源的なものもバックアップして大変良い地域だなと感じました。先ほどお話しがあった学校運営委員会の中で学校評議員のこれからの役割、今までの学校評議員はどちらかという評価するという役割だったのが、今度はおそらく運営委員会に入ると少し活動が変わると思いますが、どんな風にお考えですか。

酒井校長： 実は、本校の評議員さんと運営委員さんが2人タブっている関係で、行く行くはおそらく一緒になっていきますし、運営委員会の中でも学校の評価ということをしていただいているところです。学校評議員さんにも湊コミュニティスクールの評価をいただいていますし、学校全体の評価もいただいておりますので、お互いに相乗効果も持ちながらやっていただければありがたいなあと思います。ただ、全部一緒になってしまうと訳が分からなくなってしまうので、かぶる人達はもちろんいらっしゃいますが、そこを上手く使えればいいのかと思います。実はふたを開けてみてびっくりしたのは、南部中の学校評議員さんが本校のコミュニティスクールの委員さんにもなっているの、ちょうどそういった意味では、そういった繋がりも持てるなあというところを感じておりますので、良い重なりを活かせる方向にしていきたいと思っております。

草間職務代理者： 学校評議委員さんは新しい活動というか、一つの目標が出来たような気がします。評価だけではなくて、自分達も動きながら評価を得るということで、非常に上手くいけばいいと思います。

岩本教育長： 一通りご意見、ご質問等いただきました。湊小はもちろんこの取り組みを一生懸命やっていたで、非常に成果も上がってきておりますが、他の学校の取り組みも資料をご覧いただければと思います。例えば長地小は長地コミュニティ通信を出していただいております。長地小も非常に積極的に取り組んでいただいております。しかも、自分達の取り組みの状況を地域の皆さんに発信していただいております。そういう点でも特出される部分ではないかなと思います。どの学校でも、それぞれのこれまでの学校支援の皆さん、或いはボランティアの皆さん、色々な方のご協力を頂きながら、徐々に徐々にそれぞれの学校のコミュニティスクールが形になるという点が伺えるのではないかと思います。私は、校長先生方にいつもお願いしているのは、学校とりわけ子どもが非常に世話になる訳ですけども、地域の皆さん自身も子どもや学校に関わっていただくことで生きがいを感じていただく。つまり『相互互惠』、子どもはもちろん、地域の方もそれによって豊かな生きがい、そういったものを感じていただく。そういったことが地域づくりでは非常に大事なことかなと思います。そういった点も大事にさせていただきながら今進んでいく、そんなところかなと思います。来年度中にはそれぞれの学校がさらにパワーアップして岡谷版コミュニティスクールが本当に岡谷の中でしっかりと位置づいて、そして、このコミュニティスクールを核にしながら新たな地域づくり、学校づくりが進んでいくのではないかなと期待しているところでございます。

また、折々に学校の様子を見ていただきながら、ご意見等をいただけたらありがたいかなと思います。酒井校長先生ありがとうございました。それではコミュニティスクールは以上にさせていただきます。

続いて、2番目として岡谷スタンダードカリキュラムを議題とさせていただきます。

(2) 岡谷スタンダードカリキュラムについて

岩本教育長： 事務局より説明をお願いいたします。

<統合企画教員の竹内先生、小林先生よりスタンダードカリキュラムの実践例の説明や12月に行われた文部科学省活力ある学校づくり推進事業有識者会議についての報告。>

岩本教育長： ありがとうございます。発表を聞いてお感じになったことがいくつかあると思いますがどうでしょうか。

橋爪委員： まず、小林先生のお話しの中で、感じたこととしては、具体的に指導案といいますが、これをやればよいよというベースになるものを作られるというのはすごく意味があるなと思いました。もう実際にこんな風にして始まっていることを嬉しく思いますし、それを考えていくと一つお尋ねしたいことが浮かぶんですけど、これを他の先生方も利用できるようにしていくというお話しがありましたが、その場合には本当に手軽にその情報にアクセス出来るのが肝心かなと思うんですが、先生方がこの情報にふれる手段というのは、システムの問題かもしれないんですが、どんな風にするのでしょうか。

統合企画教員： 今、そういう状況になっていますが、岡谷市内の小・中・市教委フォルダーがありまして、全ての学校の先生が自分のパソコンから見れます。市教委も見れます。そのフォルダー中にスタンダードカリキュラムに関する一切切の情報が入っている状態です。私達は、これから実際の足元の実践もしていく訳ですけども、課題として考えなければいけないのは、よりそれをシステム化していく。今、橋爪委員さんがおっしゃったように先生方には校長先生にプレゼンをしていただいて、周知していただいた状態ですので、これからこうやって利用してくださいとか、いくらでも先生方がそれぞれの学校で積み重ねた実践をここに入れてもらっていいといいますが、是非入れてくださいということですか、そこをちょっとためらっている先生がいたら我々が出向いて是非これは実践として皆さんの共有の宝にさせていただきますということを繋いだりしながら、このフォルダーを充実させる。そこをたたけば、先生達の色々な実践や指導案や子どもの姿に触れる。そういう形づくりを今まで以上に進めていくことが課題となっております。

橋爪委員：ありがとうございます。たぶんこれから件数も膨大なものになっていくと思うので、システムの充実の中に整理というか、検索のしやすさみたいなものも含めて進めていただくといいなあと思いました。

それから、竹内先生がお話くださったことの中で、やっぱり大人の側もということがとても新鮮だなあと思いました。自分の胸に手を当ててみるとやっぱり子どもに教えられだけのものを持っているのだろうかという疑問というか不安がわきます。本当に大人の側も一緒に育ていくところが非常に有意義だなあと思いました。

草間職務代理者：先生方はどうしても岡谷に赴任されて3年ないし4年でまた他地域へ移られることが多いと思うんです。その場合に今、橋爪委員がおっしゃったように先生方が見れるプログラムと、もう一つは、どうしても今を生きる「ひと」。いわゆる今の人達の協力が非常に必要になってくると思います。それで、岡谷市には出前講座という大変素晴らしいシステムがあるんですけども、その岡谷の良さを先生方も学びながら、我々地域に住んでいる人達もなるべくそういう知識を浮かべながら、いいまちを子ども達に伝えていかなければならないということを、ひしひしと感じています。今後このスタンダードカリキュラムを進めていくにあたって民間の人達の協力が必要になっていくと思うんですが、その辺はどのように考えておられますか。

統合企画教員：スタンダードカリキュラムは、先ほどの話しにもあったとおり、どこを輪切りにしても「ひと」という部分が凄く大切になってくると思います。酒井校長先生から話しがあったコミュニティスクールも同じで繋がっているなあと思いました。コミュニティスクールは見守りだとか読書ボランティアだとか、放課後居場所づくりだとかそれぞれの学校で岡谷は宝を持っていると思うんですが、そこにプラスアルファしてこれから課題になってくるのが学習支援のボランティアだと思います。ボランティアと言ってしまうと先ほど話題になったボランティアという言葉がどうかというところで、なんとか隊とつけたり、なんとか応援団とつけたりネーミング自体もみんな工夫してまして、例えば学習支援応援団というのを作ったとしたら、そこにどんな方が登録されるか、或いは登録とかそういうものでなくて、いつでも窓口があって、そこに話しをすると繋いでくれるだとか、そういった学習支援の体制のところと大きく絡んでくると思います。コミュニティスクールの進み具合とスタンダードカリキュラムとを繋ぎ合わせながら進んでいく部分だなあと思いました。

高木委員：草間職務代理者からお話しがあった出前講座ですが、出前講座というのはスタンダードカリキュラムの中で位置づいているのですか。

統合企画教員：岡谷田中小でいえば、毎年水道の出前講座に来ていただいているやっています。岡谷スタンダードカリキュラムがない頃は、それぞれの担任の先生がこれは必要な地域学習だなということで、それぞれの意志の中で、または、学年内や校長先生との相談の中で行ってきたところですが、そういうものも岡谷スタンダードカリキュラムに位置づいておりまして、具体的にどう進めていくかというところでもあります。

高木委員：私も水道の出前講座はとてもいい講座で、今までの積み重ねもあるし、教えてくださる方にも積み重ねがあって、とても分かり易く岡谷のことを教えてくださるということで、こういう出前講座があり、その他にもいろいろな出前講座が岡谷市の中にあるということは、本当に岡谷市の宝だと思いますので、それがこのスタンダードカリキュラムの中で有効に使われていけば、今、竹内先生、小林先生がおっしゃってくださった「ひと」との関わりということに関しても非常に機能していくのではないかなあとという風に思いました。「ひと」と大人がまたその再認識して成長していくということと、地域づくりのパートナーになっていくというのはすごく密接に関係していることだと思いますので、スタンダードカリキュラムとコミュニティスクールとこれから相互に付け合せていく中で、「ひと」づくりというのが大きなキーワードになって、子どもだけではなくて、大人も含めてこれから上手に機能していくのではないかなあと思いました。

藤森委員：先ほどから色々お話しをお聞きしまして、福井大学の松木先生ですかね、色々ご助言をいただいたというような報告を先ほど頂いたんですが、その中で皆さんがおっしゃっているように大人も一緒に育てていくという、大人と子どもの両方が育てていくというのがすごく大切ななあとということを改めて思うと同時に、そういう風に考えていく時に、家庭教育というところもすごく大事になっていくんじゃないかなあと思いました。子ども達が身近に関わる大人は沢山いると思うん

ですけど、やっぱり家庭の中で親であったりおじいちゃん、おばあちゃんであったり、そういうところの身近な大人がこういったことの趣旨をよく理解した上で、共にやっていくということがすごく大事なあとだったりもしているんですが、そういった部分では何か、例えば学校の保護者とかそういった皆さんにこのスタンダードカリキュラムというものを啓発という言葉がいいか分からないんですけど、理解していただくための何か取り組みというのは考えていらっしゃるでしょうか。

統合企画教員： 今、発表させていただいたプレゼンをこの前の地域公開の時にさせていただいたんですけど、それがまず、一つのきっかけでございました。そのような機会をこれから増やしていくことが大きな課題だと思います。今、藤森委員さんがおっしゃったように、保護者の理解があつて進んでいけるかどうかというところが非常に大きなベースの違いになってくると思いますので、「こんな価値があるんだ」、「こんな意味があるんだ」というところは是非保護者の皆さんに知ってもらおう。それからPRというところがちょっと軽いんですが、価値に触れてもらいたい。扉を開いていく子どもの変容の姿に保護者の皆さんが「ああ、うちの子は育ったな」と実感していただけるようであれば、より分かり易いのではないのかなと思います。学校としましては、この前の地域公開のような機会にプレゼンしていくことと、それから、子どもとの実践で岡谷スタンダードカリキュラムでこんなことをやりましたということや学年通信、学級通信、学校だより等で発信していく。また、子どもがこういうことやったよと家に戻って保護者に語ります。保護者から「授業すごい面白いらしいじゃん」というリアクションが私のところに返ってきます。そうすると私も励みになりますので、また嬉しくなって調子づいてやる。どの学級でも先生達はそうやってのりながらやっているんで、そういった足元の部分と、後はアピールしてお便り等で伝えるということが大事なあとだと思います。先ほど「ひと」という話がありましたが、私もそんなところの研究をずっと続けてきた中で思うのが、「もの」、「こと」のその先には必ず「ひと」に出会うんですが、「ひと」に出会ったら、先ほど地域学習をしたらそれでいいのかということ、それとも違う。同じ様に「ひと」に出会ったらそれで学びになるのかということそれも違うと思うんですよね。「ひと」の何に触れるか、「ひと」の何を学ぶかということこそ価値がある。そういう深い部分まで保護者の方々、地域の方々理解していただくということが、一番大事なんじゃないかなと思います。ただ、「ひと」に出会うんですよとかそれだけでは伝わっていかないのかなという部分を、子どもの実践、教師と子どもの実践をベースにしながらそれを語ることが出来ればいいと思います。

太田委員： 前回、プレゼンをお聞きして、今回もプレゼンと説明をお聞きして、まだ私自身も完全にではないですけど、だいぶ具体的にこういうことなんだなあと理解が少し進んだかなあとと思います。その中で実は想像していた以上にものすごいことをやろうとしているのではないかなということや今日改めて感じさせていただきました。というのは、今回キーワードとして相互性ということと「ひと」と出会うことの大きく二つあったかなあと私自身は捉えているんですが、私の中で主体的な視点という言葉が頭に思い浮かんできて、例えば、最後の図工の版画制作の授業でイルフ童画館に行ったというお話を聞いて、恐らくこの時、学芸員さんの作品に対する主体的な視点というものとお子さん達が出会って、その中からお子さん達がお子さん達なり主体的に自分がどういう視点を持つかということをつくり出して行って、それがお互いに相互作用しながらまた違う視点をつくっていくという、そんな形で成長というか、そういったものに繋がっていくのかなあとという感じをすごく受けました。それで、その時にももちろんそういうことを意識して先生方がやってくださるんだと思いますけども、下手をすると、プログラムがあつて、材料があつて、こういう形になってということになってくると、もしかすると先生が材料を選んで、誰かに手伝って頂いて、中間的な媒介者みたいな、そんな形に実はなる危険性もあるなあとということを感じて、その時に実際に受け持ってやってくださる先生自身の主体的な視点というものも実はすごく大事になってくると思うんですが、そこが、一見すると仲介をして、子ども達を学芸員さんに出会わせて、学芸員さんから何かを学んで帰ってくるということになると先生の存在感がちょっと薄くなるような感じがするんですけど、本当はここにもう一つ先生がこのことに対してとか、対象に対してとか、自分なりの視点を持っているのかということによってものすごくどんな風にでもなっていく、変わっていくんじゃないかなということもすごくお話しを聞きながら感じましたので、すごく大変なことにな

るんだと思うんですけども、それは恐らくこのスタンダードカリキュラムだけではなく、他の授業においても同じことが結果的には言えるとは思いますが、そういうお互いの主体的な視点とか、立場というか、もの見方みたいなものは、ものすごく大事になってくるし、それがこうじゃなきゃいけないということは決してないとは思いますが、今まで以上にそういうものをより持っていくこと、先生達も持っていただくことが、すごく大きなポイントになっていくのかなあと、そんな感じがしますので、是非この取り組みを岡谷でしながら、主体的な視点をどんどん育てられる子どもが育っていけばいいなあとそんな風に感じました。

岩本教育長： ありがとうございます。それぞれ建設的なご意見を頂戴した訳ですけども、新しいことを始めると一番大変なのは先生方がこれを負担感という形で受け止めると、もうこれ以上のものは出てこないかなあと思います。松木先生のご指摘にありますが、こういった取り組みをやっているところはそこらじゅうにある訳ですけども、先生方自身が「これは素晴らしい」、「これからの教育として私も大事にしていかななくてはならない」という認識が持てるかどうか、私は一番鍵ではないかなと思っております。今日出していただいたようなことを基にしながら、さらにまた、校長会でも詰めてですね、先生方に思いを伝えて先生方と一緒にまたこの2つの事業について取り組んでいきたいなと思っております。

それから、さきほど、竹内先生からこの2つは両輪というお話しがありました。言葉を変えれば横糸と縦糸で紡いでいく。子ども達や地域の皆さんと学びや成長がそこに生まれるんだという思いを強く持ちながら進めていきたいなあと思っております。これは活力ある学校づくりの一環として本当にこれから岡谷の学校が目指すべき有り様を端的に表している事業かなあと思っておりますので、さらに進めて行くということで、皆様にもご理解をいただくということでよろしいでしょうか。

【承 認】

岩本教育長： ありがとうございます。今日はプレゼン等をしていただきながら、ご理解をいただいた訳ですけども、折々にふれて学校でどのような取り組みをしているかということ、またご報告させていただきたいと思っております。お二人の先生ありがとうございました。それでは続きまして報告事項に入ります。

○報 告

1. 平成28年度上半期岡谷市教育委員会事務の管理及び執行状況 (各課)

岩本教育長： 報告事項1について事務局より説明をお願いします。

<事務局より平成28年度岡谷市教育委員会事務の管理及び執行状況について説明。>

岩本教育長： 何かご質問等はございますか。またお読みいただいて質問等ございました遠慮なくお聞きいただければと思います。それでは、次にその他ということで、事務局からお願いします。

○その他

・行事等について (各課)

<各課より行事予定について説明>

・その他

岩本教育長： 続いて委員の中でご報告等あればお願いいたします。

1. 学級懇談会等における保護者交流サポートについて

橋爪委員： 学級懇談会等における保護者交流サポートについてなんですけども、また岡谷田中小の方から要望を頂きまして、2月6日(月)になりますけども、来入児の1日入学の折に、20分ほどお時間を割いていただいてサポートさせていただくということで計画を進めています。

それから、先日、帯川課長さんから教えていただいて、PTA連合会の総会が3月3日(金)に開かれるそうで、そうしますと、その機会に出来れば5分でもいいので、短時間枠をいただけることが出来ればという思いが、打合せをさせて頂いて、皆さんの思いが一致していますので、そうい

った要望をお伝えいただければと思います。

事務局： 事前に話しはしてありますので、具体的に場所や時間等が決まりましたらご連絡いたします。

橋爪委員： ありがとうございます。つきましては、可能ということになりますと、役員さん達だけでもこんな説明をしたいというのを事前にお伝えしておいた方がいいのかなあということが、打ち合せて話題になったのですが、そこらへんはどうしたらよろしいでしょうか。

事務局： 中々集まる機会がないみたいでして、あとは1回しかないようです。

橋爪委員： 役員さん達だけでも集まる機会というのはないでしょうか。このためだけに集まっていたくということは、そこまではお願いしないつもりですが、もし集まる機会があるようでしたらその折にも少しお時間を頂けたらと思っております。3月3日(金)当日にいきなり詳しい説明に入るよりも、そういう手順を踏んだほうがよろしいのではないかと思います。

事務局： 確認しておきます。

橋爪委員： あと、先ほど酒井校長先生からも年間の計画を今検討中だということを知って、そうしますと来年度に向けて校長先生方のご理解も頂きたいなということが先ほど打合せでありまして、もし、例えばですけども校長先生が集まる機会、短時間紹介をさせていただくような機会をいただければと思います。

岩本教育長： 大丈夫です。課長さんに言っていただければ、時間は取れますので。

事務局： 今ですと11日(水)、2月ですと7日(火)になります。

岩本教育長： あまり先にいくと計画が出来てしまうので、1月の校長会がいいと思います。

橋爪委員： では、1月の校長会でお願いいたします。例えば、こうやって、PTA連合会とか校長先生とかの会になってきますと地域の方の力を借りるという点では区長さん方のご理解もいただいかなければということも話題になりまして、それについても何か機会があるときに短時間いただくといことで構わないので、またこんな機会がありますということを教えていただければと思います。

事務局： 分かりました。また、確認をして、ご連絡いたします。

岩本教育長： その他に何かございますか。

それでは事務局より次回の開催予定についてお願いします。

<次回開催日の調整>

岩本教育長： それでは、今日は長時間にわたっての定例委員会ということで貴重なご意見等を頂き、ありがとうございました。以上をもちまして、1月の定例教育委員会を終了とします。

終了16時55分

岡谷市教育委員会会議規則第23条により署名する。

平成29年2月8日

教 育 長

岩本博行

署 名 委 員

橋 爪 園 美

署 名 委 員

太 田 博 久

調 製 職 員

吉 澤 洋 人